

僕の名前は
○○

隣の綺麗な女性は
s級魔法使いの
ラーナ師匠

師匠と呼ぶのは
僕が魔法使いとして
教えを受けているからだ

二人には仲間
そしてライバルとして
切磋琢磨してほしい

そして
師匠によく
悪戯している
ボータ

最近弟子入りしたが
師匠にべたべた
くっついて僕は
それが気に入らない

これから毎週
魔法決闘を
してもらうぞ

えー
めんどくさ

そうか...ならば
勝ったほうの
お願いを私が
聞いてやろう!

まじで
やるやる♥

兄弟子として
実力をわからせてやる
そして憧れの師匠と
デートを...!!!

僕は魔法決闘に
あっさり
負けてしまった

ポータは
師匠にお願いを
耳打ちした後

僕をみて
にやにやと笑うと

二人は部屋へと
入っていった

何をしてるのか
気になり
ばれないように
外から部屋を覗くと

師匠の大きな胸で
ポータはちんこを
挟み動いていた

お願いって…
こんなことまでっ

見たくない光景なのに
目が離せない
僕はどうしようもなく
興奮していた



ポータは
師匠の胸の中で
射精した

それも射精の音が
聞こえてきそうな
ほど大量に

師匠も
驚いたような
表情をしてる

どうして
僕じゃないんだ

うっ
まずいっ

触れてもいないのに
僕も射精してしまった

なんてっ
情けないんだ

次こそは絶対っ
絶対負けないっ

んんん

べゅる

んんん

また負けて
しまった

そして
気が付けば
部屋を覗いていた

ちようど
ボータのモノが
師匠に挿入^{はい}する
ところだった

とっ、とっ

ぬ、ぬ

だめだ
そんなの
僕の憧れの
人がっ…

でも
そんな思いは
届かなかった

ドク
ドク



あつ
そんな

師匠のお尻が
変形するほど
押し付けるボータ

これも全部
僕が負けたから

僕はこんな状態でも
また興奮して
しまっているのだ

いつも冷静で
カッコいい師匠の
初めてみる表情



ポータは
ピストンを早めて

師匠の一番奥で
射精した

く…っ
師匠っ
あっ

また
パンツの中に
出てしまった

おっ

かっ



〇〇なにか
考えごとか？

師匠っ

ついに師匠と
エッチ
できるんだっ

ボータに
先を越されては
しまったけど

ついに
ボータに勝った

僕も特訓してたけど
ボータが少し
弱くなったような…

男として
師匠を
満足させるんだ

師匠に
導かれるように
僕は挿入した

ドキッ

ドキッ



あつ
でちゃうっ

初めてで
すぐに
出てしまったか

もう一回
するか？

うう
師匠っ

したい…
けど…

僕は
興奮しすぎて

一度の
射精でもう…
たたなかった

か

お前に
自信つけるために
負けるよう
頼まれたから

オスとしても
雑魚すぎだろっw

俺が手本
見せてやるよw

わざと…
負けた…っ

負けて
やったけどさあ…

挿入だけで
即射精して
もうたたないとか

今日は
○○のためにっ

俺がしっかり
満足させて
やるからな

ポータに
突き飛ばされたが
真実に動揺し
言葉がでない

ぬいっ



何時間
経っただろう

目の前で
繰り広げられる
オスとメスの交尾

最初は理性があった
師匠もいまは
言葉にならない
声をあげるだけ…

お前は好きな女が
ハメられてるのみに
勃起してるくらいが
お似合いだよ

決闘に
八百長で勝たせて
もらったあげく

憧れの人も
満足させることが
できない僕には

何も
言い返すことが
できなかった

